

2023年12月8日 全8頁

Indicators Update

2023年10月消費統計

需要側統計、供給側統計ともに個人消費は前月から減少

経済調査部 エコノミスト 中村 華奈子

[要約]

- 2023年10月の家計調査における二人以上世帯の実質消費支出は前月比▲0.1%、振れの大きな項目を除いた実質消費支出（除く住居等）は同▲0.7%といずれも減少した。供給側統計である商業動態統計の名目小売販売額は同▲1.6%、CPIの財指数で実質化した小売販売額は同▲2.9%だった。2023年10月の個人消費は前月から減少したと判断される。
- 2023年11月の個人消費は前月から小幅に減少したとみている。12月以降は緩やかに持ち直すだろう。賃金上昇率の高まりなどが個人消費を下支えするとみている。他方、物価高は引き続き懸念材料だ。実質所得の減少などを背景に個人消費の回復が遅れる可能性には注意する必要がある。

図表1：各種消費指標の概況（単位：%）

統計		2023年 6月	7月	8月	9月	10月	出所	
需要側	実質消費支出（家計調査）	前年比	▲ 4.2	▲ 5.0	▲ 2.5	▲ 2.8	▲ 2.5	総務省、二人以上世帯
		前月比	0.9	▲ 2.7	3.9	0.3	▲ 0.1	
	実質消費支出（CTIマイクロ）	前年比	▲ 3.1	▲ 1.9	▲ 1.4	▲ 4.0	▲ 1.9	総務省、二人以上世帯
		前月比	▲ 1.3	0.7	▲ 1.1	▲ 0.6	2.2	
供給側	小売販売額	前年比	5.6	7.0	7.0	6.2	4.2	経済産業省
		前月比	▲ 0.6	2.2	0.2	0.4	▲ 1.6	
	百貨店売上高	前年比	7.0	8.6	11.8	9.2	6.1	日本百貨店協会
	コンビニエンスストア売上高	前年比	3.2	5.1	6.1	3.5	2.1	日本フランチャイズチェーン協会
	スーパー売上高	前年比	2.1	4.9	3.4	2.8	3.3	日本チェーンストア協会
	外食売上高	前年比	11.8	14.2	16.6	15.0	8.8	日本フードサービス協会
	旅行取扱高	前年比	42.6	60.4	63.6	39.2	-	観光庁
需要側 +供給側	実質消費（CTIマクロ）	前年比	0.0	0.1	0.3	▲ 0.4	▲ 0.4	総務省
		前月比	▲ 0.1	0.1	▲ 0.1	0.0	0.1	

(注1) 百貨店売上高、コンビニエンスストア売上高、スーパー売上高の前年比は店舗数調整後。

(注2) 旅行取扱高（前年比）は大和総研による試算値。

(出所) 各種統計より大和総研作成

<10月の消費総括>個人消費は前月から減少

需要側統計である家計調査における二人以上世帯の実質消費支出は前月比▲0.1%と3カ月ぶりに減少した(図表1)。振れの大きな項目を除いた実質消費支出(除く住居等)も同▲0.7%であった。供給側統計である商業動態統計では、名目小売販売額は同▲1.6%、CPIの財指数で実質化した小売販売額は同▲2.9%といずれも減少した。2023年10月の個人消費は前月から減少したと判断される。

<家計調査(需要側)>「交通・通信」や「家具・家事用品」など5費目が減少

10月の家計調査を費目別に見ると、10大費目¹のうち「交通・通信」(前月比▲9.9%)や「家具・家事用品」(同▲5.4%)、「その他の消費支出」(同▲5.0%)など5費目が減少した(図表2)。「交通・通信」では自動車等購入が押し下げ要因となった。「家具・家事用品」では、エアコンなどの冷暖房用器具への支出が前月から縮小した。「その他の消費支出」は3カ月ぶりに減少した。「光熱・水道」では、電気代やガス代への支出が縮小した。「食料」は酒類を中心に減少した。10月の酒税法改正に伴う一部商品の値上げを控えて前月に駆け込み需要が発現し、その反動減が含まれるとみられる。

図表2：実質消費支出(費目別)の前月比変化率

前月比、%	2023/3	2023/4	2023/5	2023/6	2023/7	2023/8	2023/9	2023/10	シェア(%)
消費支出	▲0.8	▲1.3	▲1.1	0.9	▲2.7	3.9	0.3	▲0.1	100.0
食料	▲1.7	0.3	▲0.1	▲1.5	0.8	▲1.1	2.1	▲1.7	28.2
住居	▲1.5	▲10.9	8.5	16.1	▲18.4	21.2	▲16.4	16.0	6.4
光熱・水道	▲4.5	▲5.1	0.1	▲6.3	2.0	▲3.0	2.2	▲2.8	8.4
家具・家事用品	▲2.0	0.2	▲4.6	▲11.6	20.2	▲7.7	7.0	▲5.4	4.3
被服及び履物	3.0	▲7.3	▲1.3	4.4	7.1	▲9.6	▲11.0	17.3	3.3
保健医療	10.1	▲0.6	▲6.3	▲0.6	1.8	▲2.3	9.9	0.2	5.1
交通・通信	8.6	3.0	▲19.0	21.9	▲13.6	11.7	10.6	▲9.9	14.3
教育	▲2.4	9.8	13.9	▲17.1	0.0	10.2	1.0	10.9	3.9
教養娯楽	2.0	▲6.9	0.7	▲3.3	▲0.9	7.5	▲5.4	5.3	9.5
その他の消費支出	▲6.2	2.0	1.2	▲2.0	▲0.4	2.1	1.0	▲5.0	16.7

(注1) 二人以上の世帯。総務省による季節調整値。

(注2) 「その他の消費支出」は名目金額指数(季節調整値)を、CPIの持家の帰属家賃を除く総合指数で実質化した値。

(注3) シェアは2022年の数値。

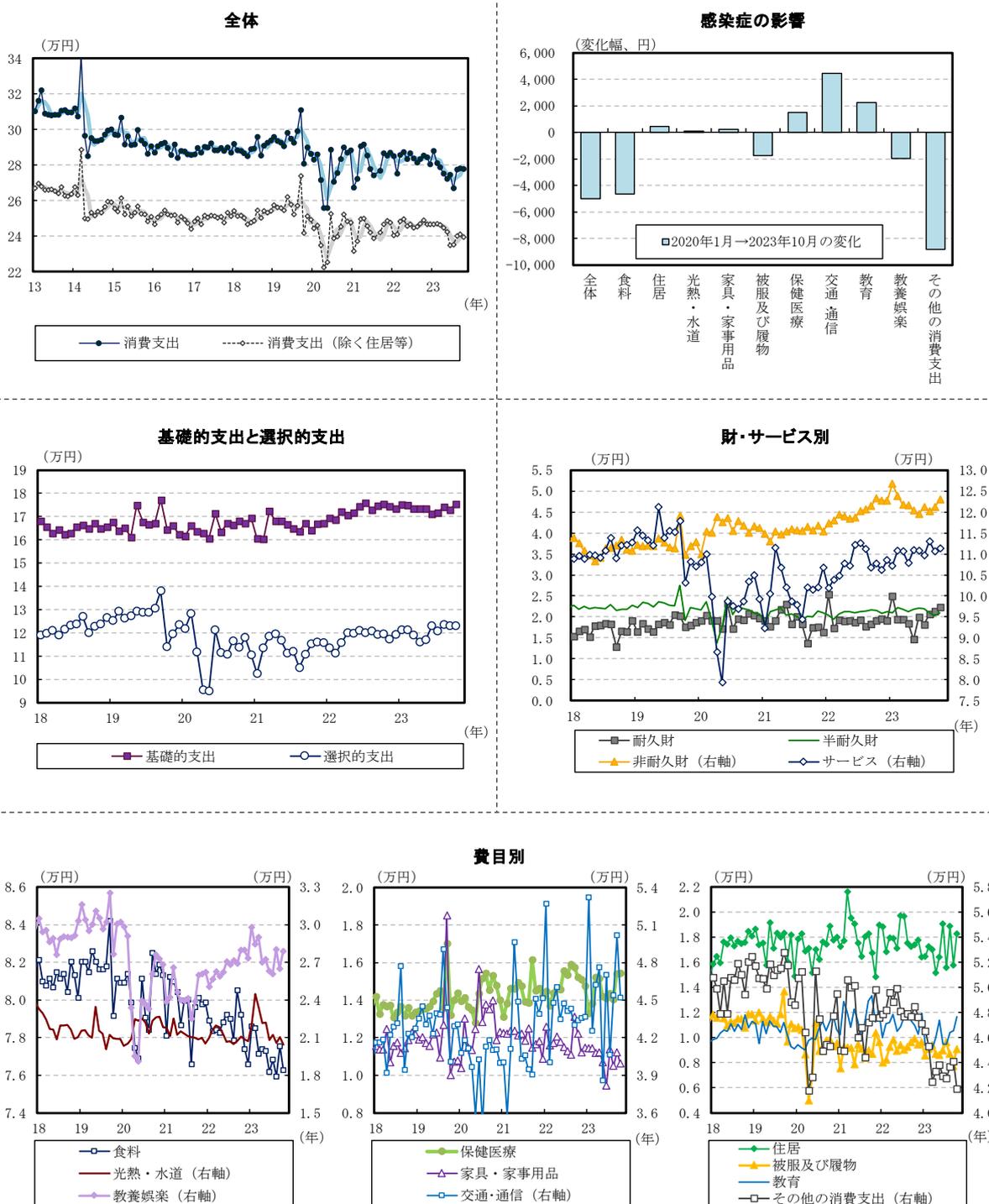
(出所) 総務省統計より大和総研作成

¹ 総務省による季節調整値。「その他の消費支出」の実質化は大和総研による。

他方で、「被服及び履物」（前月比+17.3%）や「住居」（同+16.0%）、「教育」（同+10.9%）など5費目は増加した。「被服及び履物」は3カ月ぶりに増加した。月後半にかけて平均気温が平年並みに低下した影響を受けて、ジャケットなどの秋物商品を中心に支出が拡大した。「住居」では設備修繕・維持などが押し上げ要因となった。ただし、大幅に減少した前月からの反動やサンプル数の少なさに起因する単月の振れによる動きとみられる。「教育」は4カ月連続で増加した。授業料等が押し上げ要因となった。「教養娯楽」は2カ月ぶりに増加した。内訳を見ると、宿泊料やパック旅行費などを含む教養娯楽サービスへの支出が拡大した。

消費支出の内訳の品目を支出弾力性により分類すると、基礎的支出（支出弾力性が1.00未満）は前月比+1.5%と増加した一方、選択的支出（支出弾力性が1.00以上）は同▲0.2%と減少した（**図表3中左**、大和総研による季節調整値）。

図表 3 : 実質消費支出 (季節調整値、2020年基準)



(注1) 二人以上の世帯。基礎的支出と選択的支出、財・サービス別支出は大和総研による季節調整値、それ以外は総務省による季節調整値。
 (注2) 「消費支出 (除く住居等)」は、消費支出から「住居」「自動車等購入」「贈与金」「仕送り金」を除いた数値。
 全体の図中の太線は3カ月移動平均。
 (注3) 「その他の消費支出」は名目金額指数 (季節調整値) を、CPIの生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数で実質化した値。
 (注4) 各費目で個別に季節調整されているため、その合計は消費支出全体の季節調整値と一致しない。
 (出所) 総務省統計より大和総研作成

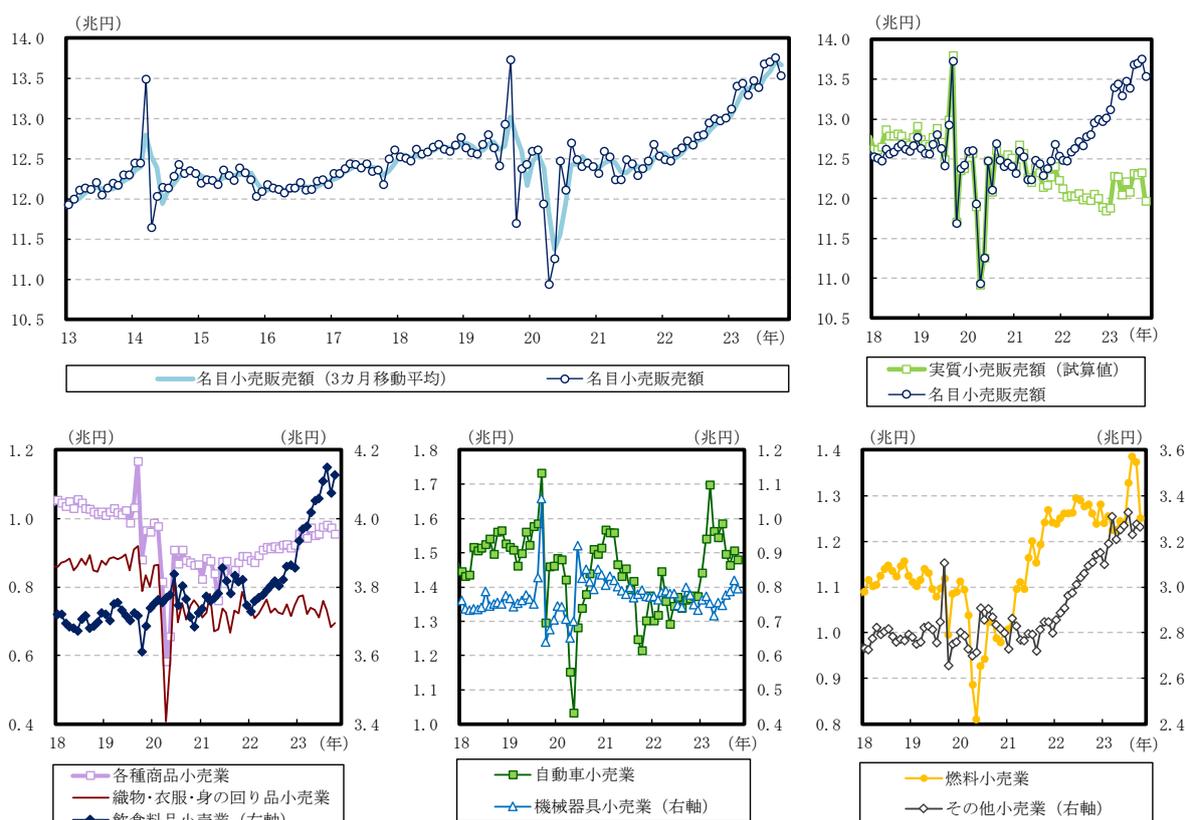
＜商業動態統計（供給側）＞燃料小売業や機械器具小売業を中心に名目販売額は減少

2023年10月の商業動態統計によると、名目小売販売額は前月比▲1.6%と4カ月ぶりに減少した（図表4、5）。CPIの財指数で実質化した小売販売額も同▲2.9%と2カ月ぶりに減少した。

名目小売販売額を業種別に見ると、5業種で前月から減少した。「燃料小売業」（前月比▲8.9%）の販売額が大幅に落ち込んだほか、「機械器具小売業」（同▲3.0%）や「各種商品小売業」（同▲1.8%）なども減少した。「燃料小売業」では、灯油やガソリンなどの燃料価格が前月から大幅に低下したことが販売額の減少につながった。「機械器具小売業」は4カ月ぶりに減少した。前述のとおり、エアコンなどの冷暖房用器具が押し下げ要因となった。

他方、「織物・衣服・身の回り品小売業」（前月比+1.7%）と「飲食料品小売業」（同+1.3%）の2費目は増加した。「織物・衣服・身の回り品小売業」は3カ月ぶりに増加した。前述のとおり、天候要因により秋物衣料の販売額が増加した。「飲食料品小売業」は2カ月ぶりに増加した。酒類などを中心に値上げが行われた影響で販売額が増加したとみられる。

図表4：名目小売販売額（季節調整値）の推移



(注1) 経済産業省による季節調整値。各業種で個別に季節調整をかけているため、その合計は「小売業計」と一致しない。

(注2) 「小売業計」は「無店舗小売業」を含む。「その他小売業」は「医薬品・化粧品小売業を含むその他小売業」。

(注3) 実質小売販売額は、名目小売販売額をCPI(2020年基準)の財指数で実質化したもの。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

図表 5：小売販売額（業種別）の前月比変化率

前月比、%	2023年									シェア(%)
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月		
小売業計	0.3	▲1.1	1.4	▲0.6	2.2	0.2	0.4	▲1.6	100.0	
各種商品小売業	▲2.0	3.2	▲2.4	0.5	2.0	0.6	▲0.8	▲1.8	7.1	
織物・衣服・身の回り品小売業	▲7.0	2.3	▲0.6	▲3.1	6.8	▲3.5	▲6.9	1.7	5.6	
飲食品小売業	0.2	1.0	0.8	0.2	1.2	1.0	▲1.8	1.3	29.5	
自動車小売業	10.1	▲8.0	▲1.1	2.6	▲5.7	▲2.1	2.8	▲1.7	10.5	
機械器具小売業	▲2.6	▲4.8	5.4	▲1.0	4.2	1.1	4.1	▲3.0	6.3	
燃料小売業	▲2.4	▲0.1	1.7	▲0.6	7.4	4.3	▲0.9	▲8.9	9.9	
その他小売業	3.7	▲3.1	1.3	0.6	1.7	▲2.9	1.4	▲0.3	23.7	

(注1) 経済産業省による季節調整値。

(注2) 「小売業計」は、「無店舗小売業」を含む。「その他小売業」は、「医薬品・化粧品小売業を含むその他小売業」。

(注3) シェアは、2022年の数値。「無店舗小売業」の系列が無い場合、各系列のシェアを合計しても100%にはならない。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

＜先行き＞緩やかに持ち直す見込みも、物価高によるマインド悪化は懸念材料

業界統計や個社データ、JCB 消費 NOW を基に判断すると、2023 年 11 月の消費は前月から小幅に減少したとみている。

11 月の消費を財・サービス別に見ると、財消費のうちアパレルについては、月の平均気温が平年よりも高く推移したこともあり（p. 8 上段）、コートなど冬物商品の動きが鈍かった。新車販売台数は前月比▲4.1%と減少した（大和総研による季節調整値）。サービス消費では、新幹線輸送量が 19 年同月比で前月からマイナス幅が拡大した。移動人口の動向を見ると（p. 8 中段）、月下旬にかけて人出は落ち込み、19 年同月を 2%程度下回った。

12 月以降の消費は緩やかながらも持ち直すとみている。外食や旅行を中心にサービス消費の回復が続くだろう。旅行大手の JTB が公表する「年末年始（23 年 12 月 23 日～24 年 1 月 3 日）の旅行動向」によると、国内旅行者は前年から約 4%増の 2,800 万人となり、19 年度の 96%程度水準まで回復する見込みだ。また、国内旅行における 1 人あたりの旅行費用は過去最高額の 4 万 1,000 円となる見通しだ²。加えて、労働需給のひっ迫を受けた賃金上昇なども個人消費を下支えすることが期待される。

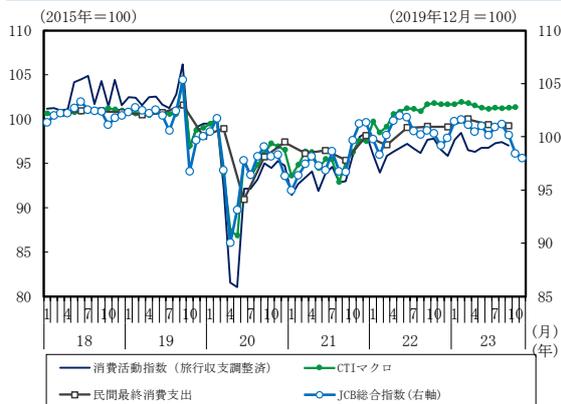
他方、物価高の継続は引き続き懸念材料だ。22 年以降続いていた値上げラッシュは落ち着きを見せたが、人件費などの上昇は続いており、24 年以降も値上げが断続的に行われる可能性がある³。物価高による実質所得の減少などを背景に家計の消費行動が慎重になり、個人消費の回復が遅れるリスクには注意が必要だ。

² 詳細は、JTB「[年末年始（2023 年 12 月 23 日～2024 年 1 月 3 日）の旅行動向](#)」（2023 年 12 月 5 日）を参照。

³ 詳細は、帝国データバンク「[『食品主要 195 社』価格改定動向調査－2023 年 12 月](#)」（2023 年 11 月 30 日）を参照。

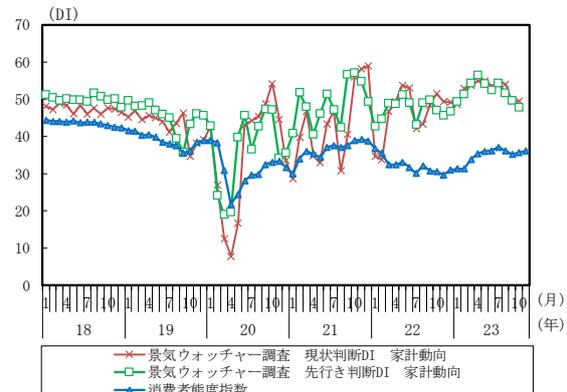
消費・概況

GDPベースの民間最終消費支出と各種消費指数



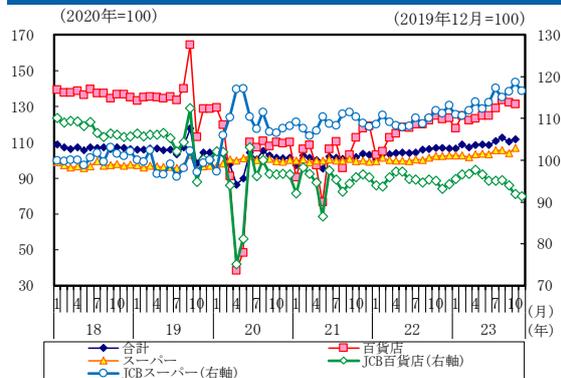
(注) 2023年11月のJCB消費NOWデータは11月15日まで。大和総研による季節調整値。CPI(2020年基準)で実質化。
(出所) 内閣府、日本銀行、総務省統計、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB 消費 NOW」より大和総研作成

消費者マインド



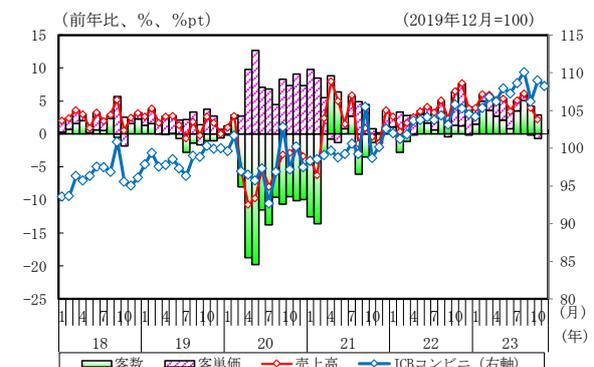
(注) 内閣府による季節調整値。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

大型小売店業態別商品販売額



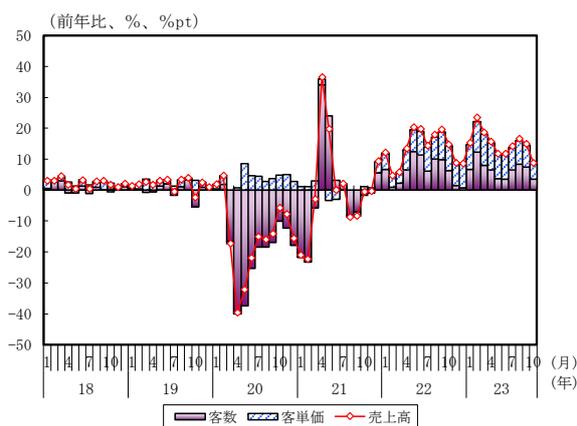
(注) 2023年11月のJCB消費NOWデータは11月15日まで。大和総研による季節調整値。
(出所) 経済産業省統計、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB 消費 NOW」より大和総研作成

コンビニ売上高(店舗数調整前)



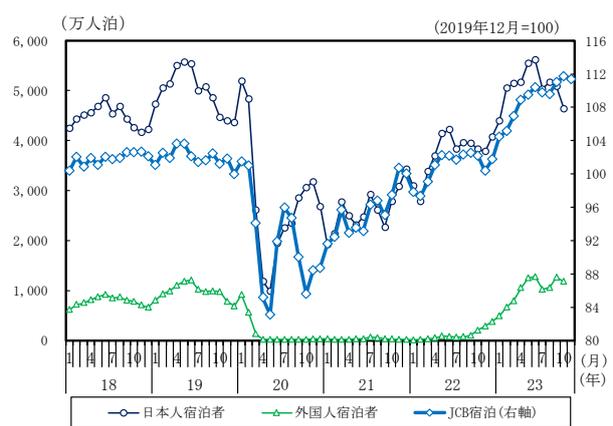
(注) 2023年11月のJCB消費NOWデータは11月15日まで。大和総研による季節調整値。
(出所) 日本フランチャイズチェーン協会統計、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB 消費 NOW」より大和総研作成

外食市場売上高



(出所) 日本フードサービス協会統計より大和総研作成

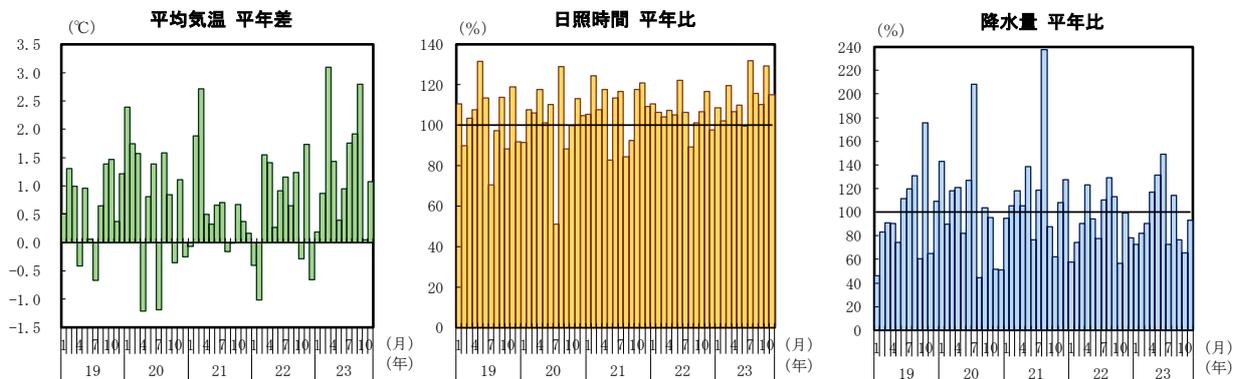
宿泊者数



(注1) 大和総研による季節調整値。
(注2) 2023年11月のJCB消費NOWデータは11月15日まで。
(出所) 観光庁統計、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB 消費 NOW」より大和総研作成

天候

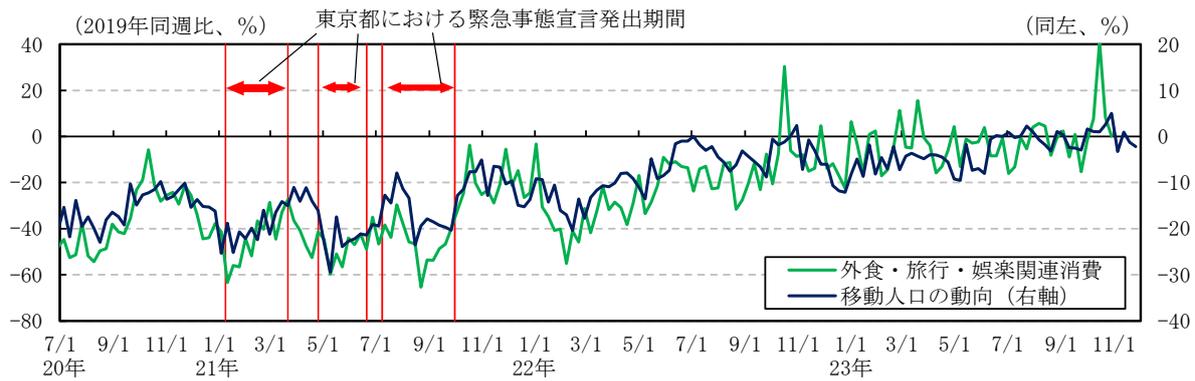
全国の平均気温・日照時間・降水量



(注) 東日本、西日本、北日本、沖縄・奄美のデータを2020年国勢調査の人口で加重平均したもの。
 (出所) 総務省、気象庁統計より大和総研作成

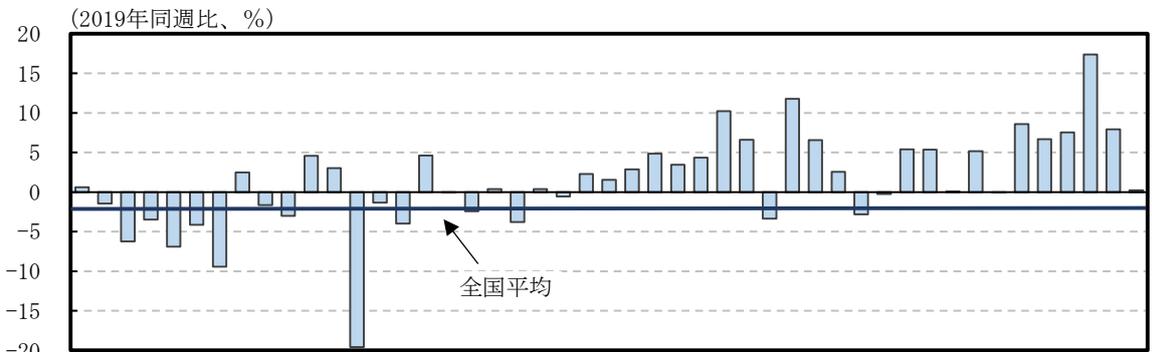
人出

外食・旅行・娯楽関連消費と移動人口の動向（直近値 11/26）



(注) 移動人口は全ての市区町村の「推定居住地区が市区町村外のもの」の人口を週ごとに集計したもの。
 外食・旅行・娯楽関連消費は「外食」「交通」「教養娯楽サービス」の合計値。
 (出所) 総務省統計、V-RESASより大和総研作成

移動人口の動向（11/20～11/26 週、都道府県別）



北青岩宮秋山福茨栃群埼千東神新富石福山長岐静愛三滋京大兵奈和鳥島岡広山徳香愛高福佐長熊大宮鹿沖海森手城田形島城木馬玉葉京奈湯山川井梨野阜岡知重賀都阪庫良歌取根山島口島川媛知岡賀崎本分崎児繩
 (出所) V-RESASより大和総研作成